

2020年7月実績概要（メモ）

（2020. 8. 20）

定修も一段落し、エチレンほか各誘導品の生産も復調がみられるも、前年割れとなる品目も多し。

1. 生産動向

イ) エチレン 500,900トン

前月比 +19.7% (+82,400トン)

前年同月比 ▲3.0% (▲15,800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	—
定修要因等	+ 14.2 %	▲ 1.3 %
能力増減	—	+ 0.1 %
稼働率変動	+ 2.2 %	▲ 1.8 %
生産増減率	+ 19.7 %	▲ 3.0 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月92.2% → 当月93.8% ← 前年同月95.3%

定修プラント：前月 3社3プラント → 当月 3社3プラント ← 前年同月 1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増加とともに定修規模の縮小からLD、HD、PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、ベンゼンなどの14品目がプラス。SM、BRなどの3品目はマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因からLD、PP、PS、SM、EO、EG、AN、SBR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの12品目がマイナス。塩ビ樹脂、MMAモノマーなどの5品目のみがプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数の増加とともに定修規模の縮小からLD、HD、PPは大幅な増加となった。

前年比では、定修規模の差や稼働率要因からLD、HD、PP、PSの4樹脂ともにマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、定修による供給上のネックが解消されたと同時に、消費マインド面では厳しい状況の中での持ち直しの動きや、製造業における産業活動も改善なども相俟って、LD、HD、PP、PSともにプラスとなった。

前年比では、LD、HD、PPの3樹脂でマイナスとなり、当該月の単月の出荷量としては近年では最低レベルの出荷状況が続いている。特に、LD、HDではフィルム分野を中心にほとんどの分野において出荷減少が見られている。PPは射出成形分野の減少が未だ続くも、フィルム分野、繊維向けの出荷では増加が見られつつある。PSは前年の出荷レベルが総じて低めであったこともあり、包装分野、雑貨・産業分野での出荷増加から僅かながらもプラスとなった。

ハ) 輸出

前月比では、前月に輸出が一時的に増加したLD、PSは当月はマイナス。逆にHD、PPはプラスとなった。

前年比では、前年の輸出が絶対量としてはやや低めであったことから、LD、HD、PPの3樹脂でプラス。PSのみがマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSともに減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、HD、PP、PSで低下、LDは前月並みに留まった。在庫水準としては、LD、HDではやや高め、PP、PSはほぼ適正レベルとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		6月末	7月末
LD	▲ 3,600	3.4	3.4
HD	▲ 1,500	3.3	3.2
PP	▲ 27,800	3.4	3.0
PS	▲ 5,600	2.6	2.0

以上